

パネルディスカッション1 第5回大会企画パネル

子どもの日本語教育における教材とICTの可能性

1. 本パネルの趣旨

近年、新聞・テレビ等のメディアで子どもの日本語教育に関する話題を目にすることも増え、子どもの日本語教育が日本社会の1つの課題として認識されつつあることを日々感じます。そのような中、子どもの日本語指導や教科学習支援などをいかに効果的に行うかという実践的課題はいまなお山積みです。本パネルでは、子どもの日本語指導や教科学習支援において、欠かすことのできない「教材」をテーマとして取り上げます。

本パネルでは、まずは、現場で教材を作成し使用する立場からの声を聞きたいと思えます。そして、近年成人も含めた第二言語教育の場で注目されている CLIL (Content and Language Integrated Learning、内容言語統合型学習) の視点から、授業や教材などについて、どのような議論が展開されているのかについて話を聞きたいと思えます。子どもの日本語教育においては、教科内容と日本語の学習を同時に考えることは常です。子どもの日本語教育に CLIL の考え方をそのまま応用すべきだというのではなく、共通点や相違点について考えたり、お互いに学ぶことは何かを議論したりできればと考えています。そして、それらの議論の中で子どもの日本語教育における(教材・教具としての) ICT の可能性についても取り上げたいと思えます。

本パネルは、2020年3月の第5回大会のために発案されたものの、新型コロナ感染拡大の影響を受け、大会は中止、パネルは延期となっていた企画です。この2年間、日本語教育に限らず、子どもの教育の世界に ICT が急速に普及しました。そこで、今回はパネリストとして花島・宇野両氏を新たに迎え、パネルを再構成しました。一部の発表者の資料¹は第5回のプログラムや予稿集に掲載済のもの(ほぼ)同じものですが、パネル全体としては2年前とは違う議論の展開ができるのではないかと考えています。

コーディネーター： 西川 朋美 (お茶の水女子大学)

2. パネリストの紹介

- ・田中 薫 (とよなか JSL)

「「学習力を育てる日本語教案集」の教材とは一教科との接点をどう考えるか」*

- ・花島 健司、宇野 英理子 (港区立筈小学校)

「「体験によることばの学びの場を作る」一教材・教具としての ICT 活用の試み」

- ・河上 加苗 (白鵬女子高等学校) *

「高校生への日本語教育と教材一私立高校の日本語教育カリキュラムから」

- ・奥野 由紀子 (東京都立大学)

「内容と言語を統合する学び一教材との関連から」*

¹ タイトルに*印のある発表の資料